

中学校事例

活用場面	現職研修（いじめアンケート結果報告会）		
実施時期	8月下旬	活用時間	45分
ねらい	<p>いじめ事案に立ち向かう職員集団を目指して</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いじめの組織的な未然防止に関する研究の内容について再確認する。 ・アンケート結果について、積極的なデータ分析及び意見交換を行う。 ・経験則と認識のずれを融合した「いじめ」の捉え方を意識する。 ・自主的な校内研修に向けての動機付けとする。 		
特色・工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・学校独自の「いじめ予防研修プログラム」の策定に向けたプロジェクト委員会の中で、本アンケート調査を活用した研修について検討する機会をもった。 ・学校教育目標を達成するためのさまざまな教育実践の中に、このアンケート調査の活用も位置付けられることを説明し、研修への動機付けを図った。 ・アンケート結果はその場で提示し、個人での分析後、少人数のグループ協議や全体での共有の時間を設け、参加者全員が自ら考え、意欲的に参加できるようにした。 		
内容・流れ	<ol style="list-style-type: none"> ①はじめに ②研究について（再確認） ③個人でのアンケート結果の分析（生徒－教員比較） ④グループでの共有 ⑤ふりかえり（事後アンケート記入） 		
参加者の声	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもだけでなく、大人（教員）の中でも認識が大きくずれていることが分かった。今後は、自分の感覚や経験則だけで指導しないように気を付けたい。 ・生徒と教員の認識のずれを、把握しているのとしていないのとは、最初に一声かける場面から変わってくるように感じる。 ・教員の「いじめ」に対する認識が高いということが分かり、教員が日頃からアンテナを高く保っていると捉えられる。 ・「いじめ」と「感じない」と答えた教員が多かったのは、私たち教員はつらい体験を克服してきた「生存者」だからではないかと思った。 ・割合だけで考えることは危険であると思った。少数であっても、それを「いじめ」と感じて苦しい思いをしている子がいるなら、教員は理解できるようにしないとけないと感じる。 		
委員所感	<p>アンケートの結果について、表面的なことだけでなく、その背景についても考え、意欲的に参加する様子が見受けられた。グループや全体での共有では、互いに新たな気づきを発見する場面も多かったと感じた。この研修会の後に、2年生の道徳の授業でSNSをテーマに扱った際、今回得られた調査結果のとおりSNSを介した行為に対して「いじめ」の認識が低いことを再認識した教員もいた。このことから、このアンケート結果について、朝や帰りの短時間で担任から話したり、道徳や学級活動の内容と関連づけて活用したりすることができると思われる。</p>		